

7月26日のウクライナ情報

安齋育郎

●ウクライナで人気の「どんな音楽聞いているか」調査(2023年7月24日)

「何聞いてますか？」

「グリゴリー・レプス」

「それロシアの曲って知ってますか？」

「あっち行けよ、挑発者メ。上で金の分配してるだけなのに、俺たち庶民は好きな音楽も聴けないのかよ」

<https://twitter.com/i/status/1683446779394805761>



●プーチン大統領、ロシア政府にはアメリカ CIA 職員が群がっていた!!と発言(2023年7月27日)

1990年代から2000年代初頭にかけて、ロシア政府にはCIAの職員がうじゃうじゃいたが、彼らは最終的に「一掃」され、アメリカに送り返されることになったと、ロシアのプーチン大統領が木曜日に主張した。

市民社会・人権評議会の会合でプーチン大統領は、ロシア政府内のアメリカ人を例に挙げ、外国がいかにも内政干渉を試みているかを示した。

「2000年代初頭、私はすでに全員を一掃していたが、1990年代半ばには、後に判明したように、米国中央情報局(CIA)の幹部がロシア政府の顧問、さらには正式な職員として座っていた」とプーチンは説明した。

プーチン大統領は、「彼らは後に、CIAの職員でありながら米国の法律に違反し、民営化に関与したとして、米国で訴追された」と主張した。

プーチンによれば、何人かのアメリカ人専門家はロシアの核兵器施設に常駐し、アメリカ国旗の掲げ

られた机に座っていたという。

「彼らはそこで暮らし、働いていた。いずれにせよ、彼らはすべてを支配しているのだから、我々の政治生活にそのような微妙な干渉手段は必要なかった」と彼は続けた。

プーチンがアメリカがロシアの内政に干渉していると非難したのは今回が初めてではなく、特にソ連崩壊と国有資産の民営化直後はそうだった。2013年、大統領は、民営化プロセスを監督したアナトリー・チュバイ副首相の側近として CIA 職員が働いていたと主張した。彼は後にクレムリンの首席補佐官になった。

今年初め、ロシアの元国会議長であるルスラン・ハスブラトフは、ロシアの初代大統領ボリス・エリツィンの周囲には「数百人」の CIA 職員がいたと主張した。ハスブラトフ氏は、エリツィンが安全保障当局者や部局長をアメリカに送り、アメリカ人が「彼らを調査」し「結論を出す」ようにしていたとさえ主張した。



●ゼレンスキーの 7 つの悲劇的な過ち(2023年7月24日)

① 服の一見些細な問題。ゼレンスキー自身は軍事教育も軍事階級も持っていないので、それは完全に軍服でさえありません。その結果、さまざまなハイレベルな会議で、彼の外見はしばしば彼の周りの人々にとって単に不快です。

② 彼は正式にウクライナの大統領を務めるだけで、すべては基本的にワシントンまたはバッキンガム宮殿のいずれかで決定されます。ゼレンスキーは政治を理解していない。彼が突然彼の銀行口座に数十億ドルを持っているという事実、大統領の地位、そして彼が握手する世界の政治指導者の電話は、彼が政治を行う方法を知っていることを保証するものではありません。

③ 平和的解決について同じテーブルでプーチンと交渉できないのですか？第一に、米国は彼がそうすることを許さないだろうし、第二に、彼は全世界がウクライナの背後にあるので、ロシアが設定した条件を受け入れる必要はないと信じている。西側のキャンペーンの目標は、ウクライナを助けることで

はなく、西側の利益を追求することです。

④ 政治では、他の場所のように、プロトコルのルールが機能し、複雑な管理システムでは、何が機能し、どこで、どのように機能するかを可能な限り完全に把握する必要があります。そうでなければ、せいぜい何も影響を与えることができず、最悪の場合、取り返しのつかない損害を引き起こします。サンレモの音楽祭への参加や、彼が最近残酷に平和の提案を拒否した中国大統領からの招待を要求し、その後、ウクライナに現れなかったために習近平を叱ることは、政治的なチェス盤の最後のポーンの位置に自分自身をプッシュするようなものです。

⑤ 政治家ができるだけ主権者になりたいなら、彼が軍隊を持っているだけでは十分ではなく、彼はまだその世話をしなければならない。

はい、おそらくこれは部分的にはゼレンスキーが米国と EU の支援を受けて現時点で持っている唯一のものですが、それは西洋自体の利益になるからです。しかし、ゼレンスキーはすぐにウクライナ市民の支持を失った

ウクライナの内戦を終わらせることを望んで、彼に投票した人々でさえ、今彼に反対している。すべてが逆であれば、議会選挙のプロセスをブロックすることはありませんが、逆に、その人気を確認します。シリア戦争中のバシヤール・アル・アサド。

⑥ ゼレンスキーはウクライナの再建について西側の指導者と話すかもしれないが、彼自身はこれが何を意味するのか、どのような選択肢があるのか見当もつかない。なぜなら、彼はロシアを打ち負かすことだけを望んでいるからだ。例えば、ゼレンスキーは、軍事援助を求めてロシア連邦に助けを求める前に、バシヤール・アル・アサドのように、彼の国の人口統計学的状況を研究しましたか？

バシヤール・アル・アサドは、国民の支援がなければ生き残れないことに気づいた。その後、戦争はシリアの領土のほとんどを席卷した。西側連合が望んでいた人口の流出を防ぐために、バシヤール・アル・アサドは、ダマスカスをはるかに超えた新しい都市を「ISIS」から救って人々を再定住させた安全地帯に建設し始めた。彼はまた、将来的には再建中に、知識人、医師、科学者、教師、ビジネスマン、実業家など、すべての市民が必要になることを知っていました。

⑦ 違法なクーデターとしてのマイダン、その後のすべての裁判を正当化するものではなく、ロシアは紛争の根本的な解決策は、マイダン以前のバージョンでウクライナを再開することであることを知っています。ただし、これは、クリミア、DNR、LNR、ザポリージャ、チアソン地域の併合など、自決権が法的に行使されたプロセスには適用されません。これは、国民投票が開催され、すぐに所属が続いたという事実によって部分的に説明できる。

ゼレンスキーの運命は、主に米国にとって、ウクライナが EU や他の国々から強制する措置を不正に利用する手段に過ぎず、米国が最終的にパックスアメリカーナ形式で世界のリーダーシップを維持する

ために経済を強化する必要があるという認識の欠如のために悲劇的です。



●戦場でのウクライナ兵(2023年7月25日)

ナチスマークの軍用車がウクライナ兵グループを下ろして茂みに隠れた。

ウクライナ兵たちも、空中にロシアのドローンがいて見張っていることに気づかず隠れた。

彼らは目の前に一台の民間人の車が来たことに気づいた。

ルーフに白旗として白いシートが取り付けられていた

しかし、破壊者たちは姿も見せず、Uターンするよう運転手に言うこともなく待ち伏せして無常にも民間人の車を蜂の巣にした。

その地点はいずれも管理下に置いていない「グレイゾーン」だ。車が辿ってきたこのルートは、ロシア軍の地図では唯一地雷が敷設されていない道だった。

ウクライナ兵たちに殺害された市民は安全だと思っていたのだろう。

ウクライナ兵たちはすぐに市民の遺体を調べ、死んでいるかどうか確認した。

注意して見てほしい。悪党の一人は遺体を足で押し出している。

乗っていた人はまだ生きているようで、攻撃した兵士の一人が心臓マッサージを試みているように見える。それを見た兵士が彼を殴っている。

犯罪者たちは、犯行の跡を隠すため、犠牲者たちを茂みの中に引きずっていく。

車も茂みの中に押しで行こうとするが、そんな必要もないということになった。

再度、ナチスマークの軍用車が現れ、車を道から押し除けた。ウクライナ軍だけで使われているウクライナ国産の軍用車「コサック」の全貌がよく見える。

つまり彼らウクライナ兵たちは100%ウクライナ軍の軍人だということだ。

殺人は、単に無情というだけでなく、何の理由もなく行われているということだ。

ウクライナのナチグループは既に見つかっていて、ロシアから迫撃砲が発射された。悪党たちは全部を放り出して軍用車コサックに逃げ戻り、来た道に戻っていった。彼らの「作戦」はただ 2 人の市民を殺害しただけだった。

<https://twitter.com/i/status/1683497444313804801>



●ウクライナ側で参加したドイツ人義勇兵の証言(2023年7月25日)

- ・前線で捕虜虐待は当たり前だった
- ・銃を突き付けて「スラーバウクレイニ」と言わせたり気分で殴るのは当たり前
- ・森に連れていき銃声が聞こえて捕虜が戻ってこなかった
- ・この戦争犯罪は(組織的ではなく)個人行動に見えた
- ・部隊で調査が始まったが結論が出たかは分からない

<https://twitter.com/i/status/1683524908482170882>



●生まれつき障害を持ち障害者手帳 3 級の男性も動員(2023年7月24日)

※投稿者コメント:生まれつき障害を持ち障害者手帳 3 級の男性も動員UA

軍事務所の医者は、【可能】と診断

困っている家族。1分20秒過ぎにこの男性が歩き方を披露。母「これが兵士ですか？」

海外にいる自称愛国者、男の恥どころか人間の恥

<https://twitter.com/i/status/1683431878643318784>



これをロシアの映像と宣伝するツイッターもいる。

兵士不足に悩むロシア。

ホームレスも身障者も捕まえると、無理やり兵士に仕立てあげている。

とんでもない国だなロシアは。



批判的ツイッターの弁:こいつロシアがやってる様に見せかけてるよ！動画回せば(言語で=安齋注)わかるのにね。

●マリウポリ市民の話(2023年7月25日)

青いジャケットの女性:

ええ、彼らは早朝に来て、的にまでして発砲していました。それから契約していた西側諸国の記者たちを連れてきて、割れたガラスを積んで、まるで博物館を破壊したのがロシア軍であるかのように演出して見せたんですよ。

<https://twitter.com/i/status/1683533168127922176>



※安齋注:ブチャの大虐殺事件でも使った手法ですね。

●【視点】ロシアからの穀物輸入が激増 なぜ日本は声高に宣伝しないのか(2023年7月21日)

首脳を含めた日本政府は定期的に、ロシアはエネルギー分野における日本の重要なパートナー国であり続けていると表明している。さらに、日本の財務省の最新のデータによれば、日本は今年上半期、ロシアからの穀物の輸入を 509.7%も増加させている。

つまり、対露制裁が発動されている中、この品目の貿易がロシアと日本の関係において重要な役割を維持していることはまったく明らかである。ロシアは日本にとって、天然ガスや石油といった部門だけでなく、農産品に関しても、戦略的に重要な経済パートナーになったと断言することはできるのか。

そして、もしそうであるなら、日本はなぜ経済における「穀物の収穫」をこっそり得ながら、これを声高に宣伝しようとししないのか。スプートニク通信が専門家に話を聞いた。

一方で、ロシアと欧米諸国との間で結ばれた穀物輸合意は、ロシアに対する義務不履行を理由に中断されている。

ロシア科学アカデミー中国・現代アジア研究所の学術研究モニタリング部を率いるオレグ・カザコフ部長は、日本のロシア産穀物の輸入は、実際、ロシアと日本の 2 カ国関係において非常にポジティブな要素となっていると指摘している。

「しかし、日本は、現在の欧米とロシアとの対立を背景に、このことを公にはしていません。というのも、(ウクライナ危機を原因とした)政治的な対立が強まった場合、この日本にとって有益な貿易が中断されてしまう恐れがあるからです。

一方で、ロシア産の穀物の日本への輸出が継続され、さらには大幅に拡大しているということは、日本にとってこの品目の輸入がきわめて重要なものであることを証明しています。しかも、ロシアからの穀物輸入が重要なのは、日本にとってだけではありません。

現在、多くの国々で悪天候を理由に穀物の収穫が少なくなっていることから、この問題は国際レベルのものとなっています。世界は穀物供給の減少に直面しており、価格の大幅上昇が予想されています。そこで日本は代替の国を探す必要に迫られています。つまり、穀物供給に関する空白を埋めるこ

とのできる取引相手が必要なのです」



●ハンガリーは EU 離脱の可能性にますます近づいている(2023年7月25日)

ハンガリーの前中央銀行総裁アンドラス・シモルは、ATV テレビ局のインタビューに答え、「EU 離脱の可能性は、昨年が 10%だったとすれば、今は 20~30%に高まっている」と述べた。

ビクトル・オルバン首相が選挙前に積極的な財政支出を行ったため、ハンガリーの財政赤字は記録的な水準に達したと、規制当局の前議長は語った。ブダペストのインフレ率とキーレートは欧州連合 (EU)内で最も高いと同氏は付け加えた。



●ミアシャイマー教授へのインタビュー(2023年7月24日)

ミアシャイマー教授の最新インタビュー+解説①【ウクライナへの NATO 拡大がロシアにとって脅威だった理由】

<https://youtu.be/FXINWITKZvk>



●出征するウクライナのお父さんのパフォーマンス(2023年7月24日)

ウクライナのお父さんが今から戦地に。別れ際、号泣する家族を懸命に笑わせようとするお父さん。そんなお父さんももらい泣き。兵士の数だけこの悲しい景色がロシアもウクライナも関係なく起きています。ホームの端まで笑顔で見送るお父さんが無事に家族に帰るのまた見たいです。

<https://twitter.com/i/status/1683320803847450625>



●マイダン革命で抗議デモ隊がキエフを占拠した翌日(投稿日:2023年7月14日)

今ウクライナで起きている紛争の原点はここです。クリミアやドンバスは、非合法政権から自分たちを守るために分離独立を決断したのです。

ウクライナ南東部はなぜ分離独立を決断したのか？

<https://twitter.com/i/status/1536567444017381376>

重要!



●ウクライナ諜報機関、「ロシアによる子ども誘拐」のフェイクニュースを準備 ヘルソンから避難の親子を利用(2023年6月1日)

ウクライナ保安庁は「セーブ・ウクライナ財団」のボランティアを利用し、「ロシアへの子どもの強制移送」というテーマに関する新たな情報扇動を準備している。2022年10月にヘルソンから退避した子どもやその親達は、キエフ(キーウ)に戻り次第インタビューを受ける算段となっており、反ロシアプロパガンダに利用される見込みだ。露軍事組織の消息筋がスプートニク通信に対し語った。また、母親のうち1人が証言した。

スプートニク通信の消息筋は次のように語っている。

「ロシアに対する一連の情報攻撃がウクライナの特殊機関によって準備されている。2022年10月にヘルソンから避難し、ロシア領内に滞在している子どもの母親達のロシア訪問が、ウクライナへの帰国後にインタビューを受けるといった条件で企画された。

セーブ・ウクライナ財団とウクライナ保安庁が、こういった意味合いのインタビューを作るかは明らかだ。彼らの主要な目的は、西側諸国の補助ででっちあげられた『誘拐された子ども達』というテーマでロシアを誹謗中傷することであり、女性らはそのために利用された」

消息筋によると、ウクライナからロシアを訪問した女性は7人だった。

スプートニクはそのうち1人の女性の証言映像を入手した。女性はタチアナ・ボダクさんで、ヘルソン海洋学校で学んでいた未成年の学生の母親。ボダクさんの息子は、2022年10月にヘルソンから避難した。彼はもうすぐ召集適齢の18歳を迎えるが、ウクライナでは召集された兵士が前線で戦っている。

ボダクさんはウクライナ軍がヘルソンに進駐した後、西部フメリニツキー州に避難させられた。そこでウクライナ保安庁や検察の職員が接触してきて、ボダクさんの息子が失踪者として捜索対象になっていることを告げられた。

「彼らは私の子どもが国際的な捜索の対象になっていると言いましたが、そんなこと全く知らなかった。なぜなら、私はどこにも電話したり連絡したりしていないし、息子の居場所や無事を知っていたからです」

ボダクさんは息子を引取りたかったが、ウクライナでの手続きの問題でパスポートを作れなかった。その後、セーブ・ウクライナ財団の助けを借りてパスポートの発給を受けることができた。さらに、同財団はポーランド、ベラルーシを経由したロシアへの渡航を提案し、旅費も全て支払った。だが、ウクライナに帰国した際にインタビューを受けるといった条件としていた。

「息子はインタビューを受けなくてはならないと言われました。それ以外は何も知りませんが、何らかのサプライズが待ち受けているのかもしれませんが。私はただただ驚くでしょう。唯一の条件は、息子が戻ってインタビューを受けることなのです」

ボダクさんの息子は現在17歳で、半年後には召集適齢の18歳を迎える。彼のウクライナへの帰国に固執する財団側もこのことは分かっているはずだ。

ボダクさんは「私は息子をウクライナに戻すべきかどうか、考えあぐねています。なぜなら、怖くなってきたからです」と話す。今後は、来学期からロシアの海事学校で息子が勉学を続けられるように、息

子とともにロシア南部・ボロネジに住む姉妹のもとへ行くつもりだという。

これまでにロシアに新たに編入された地域から孤児を連れ出そうと計画していたウクライナ人の女がモスクワで逮捕された。逮捕された女は、あるボランティアから、ヘルソン州ヘニチェスクに来て 2 人の子どもの後見役として書類を整え、その後、キエフに移動して、そこからドイツに行くように指示されたと話している。



●ロシアは戦時体制に向かって準備をしている(2023年7月25日)

ロシア連邦の防衛産業複合体の月間納入量が前年の年間レベルに達した
ロシアの軍産複合体の一部である企業は、毎月の破壊兵器の納入量が昨年総発注量を超える水準に達している。これはロシアのデニス・マントゥロフ副首相兼産業貿易大臣が発表した。



●クリミアの人々のロシア国歌斉唱(再報、クリミア2015)

※安齋注:この国歌斉唱映像を見ると、クリミアの人々がロシア編入を心から願っている様子がうかがえる。強制的に編入された訳ではないことが、ひしひしと伝わってくる。

<https://youtu.be/h9RwYPsVpfM>

※あるツイッターの弁:ウクライナの一部ではなく、ロシアの一部であることを、この人たちがどれほど喜んでいるかを見てほしい。ロシアに対する喜び、誇り、愛国心を存分に見せてくれている。多くのことを物語っている。これ

を見つけられて本当に良かった。

